

平成 30 年度研究教育事業部全国リーダー研修会報告

開催日：平成31年2月24日（日）

会 場：東京都・東京聖栄大学

平成 30 年度研究事業部全国リーダー研修会は午前と午後の 2 部構成で実施された。

【午前の部】

1. 講演

「主体的な学びのためのラーニング・ポートフォリオ」

帝京大学学修・研究支援センター長

教授 土持ゲーリー法一先生

「主体的な学び」とは、能動的学修（学習）と同義語で、それを具現化した学習活動がアクティブラーニングである。しかしながら、アクティブラーニングは測定困難で評価が難しい。

これまで「知識」の多寡が学習者の能力を判断する基準に使われてきたが、能力には「知識」のほかに、「技能」「態度」の領域があり、これがアクティブラーニングを促すと考えられるようになった。「知識」「技能」「態度」の領域を測定できるのがラーニング・ポートフォリオである。

ラーニング・ポートフォリオは、「リフレクション（省察：振り返り）」「ドキュメンテーション（証拠資料）」および「コラボレーション／メンターリング（グループ学習、ロールプレイ）」の要素から構成され、最も重要なものが「リフレクション」である。学習者（学生）が、学習プロセスを振り返り、何を学ぶことができたのか、何を学ぶことができなかったのか、どのように学んだのか・・・など自問自答をさせることが重要である。

ラーニング・ポートフォリオをどのように授業に取り入れるか、授業デザインとも密接にかかわるもので、シラバスを作成する前に周到に準備する必要がある。効果的に導入するためには、「学習者中心の授業デザイン」を考えなければならない。

教員が行うルーブリックという評価基準やそのルーブリックの欠点を補う ICE ルーブリック評価方法による学びと評価の可視化について、事例を交えて教示された。詳細は、主体的学び研究所 (<http://www.activellj.jp/>) に紹介されている。

2. 事例紹介

「養成校における「教育」に関する取り組み」

(1) 「栄養士養成における食物アレルギー教育の導入の試み」愛知文教女子短期大学 生活文化学科 准教授 有尾正子先生

(2) 「学生の実践能力を高める臨床栄養臨地実習システム構築のとりくみ」神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部栄養学科 准教授 五味郁子先生

(3) 「21世紀に活躍する管理栄養士の養成のために」長野県立大学 健康発達学部 学部長 笠原賀子先生

【午後の部】

3. 研究教育事業部平成30年度事業報告および2019年度事業計画について

日本栄養士会研究教育事業部の活動（ビジョン）として栄養士制度、教育・研究、社会貢献事業、情報発信、ネットワーク構築を柱に進めていく。また、会員増に対する取り組みについて、意見交換が行なわれ、入学当初からの栄養士会の活動を紹介する、生涯教育費の1年間無料などの特典などの意見があがった。

次に、日本栄養士会研究教育事業部の動向について次の3つの報告があった。(1)管理栄養士・栄養士就業実態調査について、(2)日本栄養士会研究・教育センター（仮称）の設立について、(3)第8回アジア栄養士会議(ACD2022)が2022年8月19日～21日パシフィコ横浜で開催予定。栄養士大会を同時開催。

4. 地区ブロックグループディスカッション・発表・討議

グループディスカッションでは、「研究教育事業部で何をすべきか」をテーマに、マンダラ（3×3のマトリックスを使った発想法）を使ってディスカッションを行った。近畿地区ブロックでは、エビデンスのある情報発信、研修会（会員対象、教員対象、府県民対象）の開催などの意見が挙がった。その他、府県の活動実態について意見交換を行い、有意義な討議ができた。

（文責 研教 坂井 孝）